

自信を持つということ

新潟県立村上中等教育学校 2年 中村 美穂

あなたは自分に自信がありますか。自信がなくてあきらめていることはありませんか。

私は絵を描くことが好きです。きっかけはおじいちゃんが絵を描く姿を見ていたことでした。低学年くらいのときのことです。学校が終われば、すぐにおじいちゃんのところへ行って、お絵描きをしていました。色をつけてもらったり、褒めてもらったりするのが嬉しかったです。それもまた、学年が上がるにつれておじいちゃんと同じものを描くようになりました。スイカを描いていればスイカを食べながら隣で描く。牡丹を描いていれば隣に座って牡丹を描く。どんなに難しいお題でもとりあえず描いていました。自分は絵が上手なのだと思います。これは、絵を描くことが好きだった小学生の頃のことです。

「いろんな卵を描きましょう。」図工の時間、用意された卵形の紙にクレヨンで思いのままに柄を描いていきました。すると、隣にいた子が私の絵を見てこう言いました。「何それ、気持ち悪い。」その隣にいた子も「ほんとだ、何それ。」と言いました。とても悲しくなりました。「絵が上手じゃなかったからそんなことを言われたんだ。」、そう強く感じました。結局、その絵は気に入らなくて破り捨ててしまったことを覚えています。

その後も、ショックなことが起こりました。休み時間、先生と話をしている子がいました。何だろうと思って近づくと、自由帳に描いてあった絵を先生が褒めているようでした。どんな絵を描いたのか気になり、見てみると、この前私が自由帳に書いた絵とそっくりなものがありました。おそらくは真似られたのだと思います。楽しくも苦勞して描いた私の絵を奪われたような気分になりました。

この二つの出来事以降、自分の絵に自信が無くなっていきました。悲しいことを言われたり、真似られたりするのとは、どちらも嫌です。本当は私の絵はひどいものなのではないか。そう思うと他人に見せることが怖くて、人に見られないように絵を描くようになりました。でも私の中では納得できないのです。怯えながら、隠しながら絵を描くことは、果たして楽しいのか。本当はもっとのびのび描いていたい。そんな私がヒントを得る出来事がありました。

東京に行ったときのことです。自分で描いた絵が映像の中で動き出すアトラクションがありました。列に並び、紙をもらってクラゲを描いていると、一人の外国人の女の子が声をかけてくれました。「It's beautiful.」私のクラゲにそう言ってくれました。その言葉にハッとなりました。描いて良かったなと思った瞬間でした。

女の子の言葉。褒められたことがとても嬉しかったです。これは、承認欲求なのでしょう。保健体育の授業で習った、アブラハム・マズローの五段階欲求の4段階です。きっと私は、これまでにそれにとらわれていて、他人からの評価を気にしていました。ですが、マズローは上にもう一段階あるとしています。それは「自己実現欲求」。その欲求は自分らしくあり

たい、自分の力を発揮したいと思うことだそうです。「もっとのびのび描いていたい。」その思いは、自己実現欲求であると気付きました。私は自分らしくいたいと思っている。そのためにどうするか。それは女の子が教えてくれました。描いて良かったと思えたことは、褒めてもらえて嬉しかっただけでなく、自信がついたということです。つまり、自分の絵を受け入れられたということです。自分らしさを理解し、発揮する。自信がつけば他人からの評価なんて関係なく、自分の好きな絵を描くことができるということに気付かせてくれました。

「自信を持つこと」。今の私が大切にしていることです。人はそれぞれ考えることが違う。感じ方も違う。それは、良さでもあり、苦勞することでもあります。絵でも音楽でも感じ方が違うのですから、単に比べることはできないのです。そんな中でも、心無い言葉に傷付いたり、悲しんだりすることもあるでしょう。でも、あなたが何のためにそれをするのかを明確にし、自分に自信を持つことができれば、そんな気持ちにならなくて済むでしょう。

あなたはどうか。